

WEB サイト教材の開発

～多様な ICT の学力やスキルの住居・インテリア学科の学生のために～

香川 治美

九州産業大学建築都市工学部

kagawa@ip.kyusan-u.ac.jp

本研究の目的は、「WEB サイト教材」を応用して、本学本学科で住居・インテリア学を学ぶ学生の学習環境における課題やニーズを特定することである。「WEB サイト教材」とは、多様な学力やスキルをもつ学生が ICT を利活用して専門的学問を学べるようになることを願って開発したツールであり、筆者は関連研究^{(1)～(8)}を継続している。本ポスターセッションでは、対象科目を「情報処理入門」とし、「WEB サイト教材」を紹介する。

1. はじめに

2015年9月国連サミットで2030年までの目標として採択されたSDGsの4番目は「質の高い教育をみんなに」である。「すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことを目指す取組である。

質の高い教育の提供を促進できる場として、大学がある。

一方で、ICT利活用が新産業創出のツールとして注目されている。本学本学科には、入学時点で既にICTやCADシステム(設計支援ツール)を使いこなせる学生がいるものの、できればコンピュータを使いたくないという学生もいる。

学力のばらつきが大きい学生のニーズに応じた授業展開は難しい。また果たして本学住居・インテリア学科の学生がそもそもなぜ学ぶ必要があるのか、授業で修得した知識や技術で如何なる課題解決を実現できるのか、自ら学び、考え、判断し、行動できるようになっているのかは調査しなければ不明であり、学修環境の改善が必要であるとしても改善方針を定めるための資料や研究は少ない。

本研究は、「WEB サイト教材」を用いて、本学本学科で住居・インテリア学を学ぶ学生の学習環境における課題やニーズを特定することを目的としており、成果をもとに学生に提供する教育改善の指針を提案していく。本ポスターセッションでは科目「情報処理入門」を対象として、「WEB サイト教材」を紹介する。

2. 本教材の特徴

開発教材はパソコン、スマートフォンに限らず多様なモバイル端末でのe-Learningが利用可能である。教員は、ユーザ管理やアンケート機能を利用でき、配布資料、学生の提出資料、アンケート調査などWEBサイト教材にアップデートされるすべての電子データを授業中に集積できる。

参考文献

本報は、下記8点の発表内容をまとめたものである。

- (1) 香川治美, 教職実践力高度化をめざしたデジタル基盤教材開発事例をもとに建築技術教育への応用をはかる, 2016年12月, 日本建築学会第39回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集
- (2) 九州産業大学の事例, 情報・システム研究機構・国立情報学研究所主催, NetCommons ユーザカンファレンス2017 (<https://www.netcommons.org/userconference2017>), 2017年8月
- (3) 香川治美, 多様化する学生の学力やスキルに応じたWEB ページ教材の設計と実装, 公益社団法人私立大学情報教育協会主催, 2017年8月, 平成29年度ICT利用による教育改善研究発表会 (<http://www.juce.jp/LINK/houhou/17houhou/happyoichiran.pdf>)
- (4) 香川治美, 住居・インテリアを学ぶ学生のためのプログラミング教育事例報告, 山口県高等学校教育研究会情報部会研究会第一回研修会 2017年8月
- (5) 香川治美・永原篤, 住居・インテリアを学ぶ学生のためのWEB サイト教材の設計と試行検証その1「情報処理入門」の場合, 2017年12月, 日本建築学会第40回情報・システム・利用・技術シンポジウム (<http://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2017/171214-15.pdf>)
- (6) 香川治美, 住居・インテリア学科の学生のための「情報処理入門」教材コンテンツの開発, 公益社団法人私立大学情報教育協会主催, 2018年8月, 平成30年度ICT利用による教育改善研究発表会 (<http://www.juce.jp/LINK/houhou/18houhou/happyoichiran.pdf>)
- (7) 香川治美・土肥明・有馬信一, Javaを活用した、教員免許状更新講習における環境工学の授業報告ーICTの活用と未来の教育に向けてー, 日本情報科教育学会第11回研究会, 2018年11月
- (8) 香川治美, 多様化する学生の学力やスキルに応じたWEB サイト教材の教育効果の検証, 2018年12月, 日本建築学会第41回情報・システム・利用・技術シンポジウム